



学校通信

令和7年12月25日
東京都立葛飾盲学校長
竹内 大吾
(2学期末号)

「この1年間の経験を、新たな世界へ踏み出す勇気へと変えて」

校長 竹内 大吾

日ごとに寒さが増し、冬の訪れを実感する季節となりました。保護者の皆様に支えられながら、本日、二学期の終業の日を迎えました。早いもので、令和7年も残り1週間を切り、各御家庭でも年末、年越しに向けて忙しい時期かと思います。

さて、日本漢字能力検定協会による令和7年の漢字は、「熊」となりました。熊といえば、有名なキャラクターとして思い浮かべるのは、くまのプーさんですが、ある映画の中で、プーさんが、森の隅で誰かを待っているだけではなく、自分から出て行かなくてはならない時もあるということを伝えるシーンがあります。

この二学期、本校の幼児・児童・生徒たちは、日々の授業、宿泊行事、遠足等の校外での学習、全校行事の運動会、他校との交流学習、その他学校・寄宿舎での生活をおおして、思考しながら、多くの知識・技能や人と関わる力等を身に付けてきました。ただ、その様に身に付けた力が、校内で教職員となら発揮できる力でなく、いつでも、どこでも、誰とでも、発揮できるような力にしていくという視点を私たち身の回りの大人は、もたなければなりません。

また、校内で、保護者の方を対象にして、幼稚部主催のパパママ会とPTA主催の進路講演会を行い、本校の卒業生と別の本校卒業生の保護者から、それぞれお話を伺う機会がありました。どちらも、一人で自主通学を始めた時等、成長の過程の中で、不安はあったけど、将来のために勇気を出して、一歩踏み出してみた経験を、卒業後の生活で活かしているという内容のお話を色々と伺うことができました。

幼稚部・小学部・中学部の本校の子供たちにとっても、将来、社会で豊かな生活を送るために、居心地の良い森のような慣れ親しんだ位置・環境から、一歩出て、未知のことに戦してみる経験を、小さいうちから、少しずつ積み重ねていくことが必要になってきます。

学校や家庭の中でも、はじめは、家族や教員といった信頼できる大人と一緒に挑戦し、成功体験を積んでいき、いずれは、自分で必要性を感じて、新しいことに取り組んだり、新しい人と関われたりするようにしていかなければと思います。

年の瀬は、誰もが、その年の出来事を振り返ってしまうことが多い時期ですが、その中で、新しい年に向けての挑戦に期待を膨らませてみるのも、また良いかと思われます。

これから始まる冬休みでは、子供たちは心と体をゆっくり休めるとともに、御家族の中で、子供たちの二学期の頑張りや成長について、受け止めたり褒めてあげたりしながら、ゆったりと家族と過ごす時間を大切にしていただければと思います。

三学期に、また元気な笑顔と声に会えることを教職員一同楽しみにしています。

本年も残りわずかとなりましたが、皆様、どうぞ良い年をお迎えください。